

国際日本文化研究センター機関拠点型基幹研究プロジェクト

大衆文化の通時的・国際的研究による新しい日本像の創出

総括シンポジウム



日本大衆文化



研究の

最前線

オンライン
開催!



新しい日本像の
創出にむけて

2022.1.21 金 09:15 17:00 22 土 10:00 17:45 23 日 16:45 21:00

会場：国際日本文化研究センター第1共同研究室(傍聴はオンラインのみ)

〒610-1192 京都府京都市西京区御陵大枝山町3丁目2

大衆文化研究プロジェクトサイト

<https://taishu-bunka2.rspace.nichibun.ac.jp/>



日本大衆文化研究の最前線

—新しい日本像の創出にむけて

2022.1.21 金 —1.23 日 会場：国際日本文化研究センター第1共同研究室(オンライン開催)

主催：国際日本文化研究センター・大衆文化研究プロジェクト(共催：「国際日本研究」コンソーシアム)

参加登録フォーム <https://ws.formzu.net/dist/S42611550/>



国際日本文化研究センターでは、2016年度より2021年度にかけて機関拠点型基幹研究プロジェクト「大衆文化の通時的・国際的研究による新しい日本像の創出(略称:大衆文化研究プロジェクト)」に取り組んでいます。当初は、古代・中世、近世、近代、現代の4班を編成しましたが、年次ごとに班を再編成し各班の横断・融合を図り、国内外の研究者と連携しながら、大衆文化の学際的・通時的な国際共同研究を推進してきました。その活動内容は、大衆文化の国際共同研究の実施のほか、大衆文化に関わる研究資源の収集とその発信や、大衆文化研究の成果発信と教育プログラムの開発、さらには、大衆文化研究を中心とした国際的な研究ネットワークの再構築を目指すものでもありました。とりわけ、大衆文化研

究のための基本図書として利用されることも想定した「日文研大衆文化研究叢書」全5巻の刊行は、活動の集大成として位置づけられます。

6年間の活動を締めくくるこのシンポジウムは、若手研究者育成という目的から、中堅・若手の研究者がパネル企画を担い、「日本大衆文化研究の最前線—新しい日本像の創出にむけて—」と題して行い、4つのパネルを通して、これまでに取り組んだ大衆文化研究プロジェクト全体を検証・評価する機会としたいと思います。

なお、シンポジウムの最後は「国際日本研究」コンソーシアムのパネルとして、ヨーロッパとの対話から、「国際日本研究」の新たな展開と可能性について、考察を進めます。

1.21 金

9:15-9:30 **開会の挨拶**
趣旨説明

井上章一 国際日本文化研究センター所長
劉建輝 国際日本文化研究センター 教授

パネル① 日本語/スペイン語 同時通訳付

漫画文化の比較・日本とメキシコ

大衆文化研究プロジェクトの研究活動として日本漫画の研究、日本漫画文化史とメキシコ漫画文化史の比較研究が行われました。本パネルでは、これら比較研究の成果の一部を紹介し議論を行います。漫画表現と社会を考えるにあたって、日本とメキシコ、それぞれの国に深く浸透した大衆の文化からは何が見えてくるでしょうか。本パネルでは特にこうした議論の展開に貢献したいと考えています。



午前 (9時15分〜12時30分)

9:30-9:45 **司会(担当コーディネーター)**

エルナンデス・エルナンデス・アルバロ・タビド 国際日本文化研究センター プロジェクト研究員
なぜメキシコ漫画「イストリエタ」か?

9:45-10:00 **パネラー**

フォトモンタヘがもたらした「ハーフリアル」——馴致される身体・運動・写真
山本忠宏 神戸芸術工科大学 助教

10:00-10:15 **パネラー**

ホラー・イストリエタの展開と貸本怪奇マンガ
——ジャンルの想像力のローカルな馴致をめぐる
雑賀忠宏 開志専門職大学 講師

10:15-10:30 **パネラー**

大衆漫画から考察する日本とメキシコの40年代半ばの社会の変動の描写、
アルベルト・カブレラ作画の『Almas de Niño』と井上一雄の『バット君』の比較
オオタ・オタニ・ゲン・レオナルド メキシコ国立人類学歴史学大学 臨時講師

10:30-10:50 **メキシコ側コメンテーター**

ドミンゲス・ブリエト・オリビア メキシコ国立工科大学IPN/CESJM 講師

10:50-11:05 **メキシコ側コメンテーター**

キロス・カステーヨ・ラウラ・イボネ メキシコ国立人類学歴史学大学ENAH/メトロポリタナ自治大学UAM/CESJM 臨時講師

11:05-11:20 **メキシコ側コメンテーター**

ルイス・モリナ・フェルナンド メキシコ国立人類学歴史学大学ENAH/メキシコシティ自治大学UACM/CESJM 臨時講師
ソト・ディアス・ルベン・エトアルド メキシコイストリエタ博物館 館長

11:25-12:30 **ディスカッサント**

浅野龍哉 北京鮮漫文化創意有限公司 漫画家
フェレル・エベラルド Kamite出版/Comikaze コミック研究者

パネル② 日本語

時代劇映画の 文化的芸術的価値の 再発見 - 衣裳と殺陣

東映京都撮影所における時代劇「有形無形文化資料」調査における研究成果の一端を発表します。ここで言う有形とは「衣裳」のことで、無形とは「殺陣」のことです。調査は、東映京都撮影所および東映太秦映画村の全面協力のもと、時代劇の未整理「衣裳」を探るとともに、新国劇、東映京都に伝わる「殺陣」の型を探るもので、アートから遠いと思われていた大衆娯楽の時代劇を、従来見過ごされてきた視点から再検討することで、プロジェクトの目的としている「新しい日本像と文化観の創出」に繋がりたいと考えています。

13:30-13:40 司会(担当コーディネーター)

概要説明

石川肇 国際日本文化研究センター プロジェクト研究員

13:40-14:40 パネラー

太秦は日本のハリウッド

山口記弘 東映株式会社 経営戦略部フェロー、京福電気鉄道株式会社 取締役

14:50-15:50 パネラー

時代劇衣裳における甲斐荘楠音の役割

太田梨紗子 神戸大学大学院(院生)

16:00-17:00 パネラー

時代劇研究の新分野 - 東映京都撮影所における「有形無形文化資料」について

石川肇 国際日本文化研究センター プロジェクト研究員



1.22 土



パネル③ 日本語

大衆文化研究の 資料学

大衆文化研究プロジェクトではこれまで、妖怪関係資料、絵入百科事典、絵はがきや鳥瞰図、大衆雑誌、映画、漫画など、さまざまな大衆文化研究資源に関わる実践に取り組んできました。各パネリストが、資料収集のコンセプトやその整理方法、資料の扱い方や見せ方、デジタル技術との関わりといった観点から、そうした実践について報告します。報告と討議を通して、これらの研究資源を相互に活用し、これからの日本大衆文化研究にどのように活かすことができるのかを考えます。

10:00- 第一部

司会(担当コーディネーター)

前川志織 京都芸術大学 専任講師

パネラー

木場貴俊 京都先端科学大学 講師

パネラー

石上阿希 国際日本文化研究センター 特任助教

パネラー

劉建輝 国際日本文化研究センター 教授

パネラー

高島麻子 高島葎育ロマン館 主任学芸員

11:15- 第二部

パネラー

近藤和都 大東文化大学 専任講師

パネラー

石川肇 国際日本文化研究センター プロジェクト研究員

パネラー

エルナンデス・エルナンデス・アルバロ・ダビド 国際日本文化研究センター プロジェクト研究員

12:00- コメントと討議

コメンテーター

関野樹 国際日本文化研究センター 教授

12:30

終了



パネル④ 日本語

『大衆文化研究叢書』 書評パネル

プロジェクト成果の中核をなす「日文研大衆文化研究叢書」全5巻が示した各巻テーマをめぐり、国内外の書評者と編者が討議します。議論の前提となる各巻の序論(日本語)及びその英訳を公開予定です。

各巻書評1人15分×2 代表編者を交えて討議 計45分

司会(担当コーディネーター)

木場貴俊 京都先端科学大学 講師

13:30-14:15

2巻

書評

秦剛 北京外国語大学北京日本学研究中心 教授

書評

室井康成 専修大学 非常勤講師

討議参加

小松和彦 国際日本文化研究センター 名誉教授

14:15-15:00

3巻

書評

松村薫子 大阪大学日本語日本文化教育センター 准教授

書評

石田美紀 新潟大学 教授

討議参加

安井真奈美 国際日本文化研究センター 教授

15:05-15:50

4巻

書評

ビョーン=オーレ=カム 京都大学 講師

書評

伊藤慎吾 國學院大学栃木短期大学 准教授

討議参加

荒木浩 国際日本文化研究センター 教授

15:50-16:20

5巻

書評

王中忱 中国清華大学人文学院 教授

書評

徐園 中国人民大学外国語学院 准教授

討議参加

劉建輝 国際日本文化研究センター 教授

16:30-17:15

1巻

書評

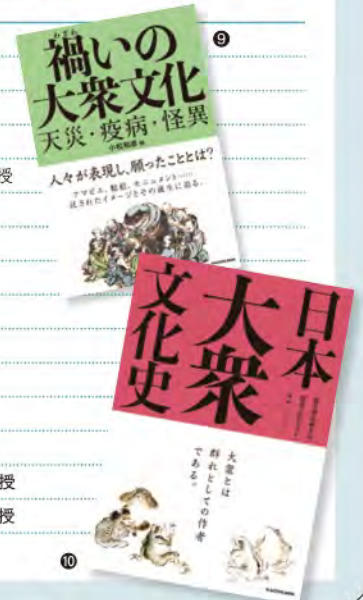
マティアス・ハイエク 高等研究実習院(EPHE-PSL) 教授

書評

竹宮恵子 日本マンガ学会 会長・京都精華大学 名誉教授

討議参加

前川志織 京都芸術大学 専任講師



パネル⑤ 日本語/英語 同時通訳付

「国際日本研究」の新展開 —ヨーロッパとの対話から

「国際日本研究」コンソーシアムが担当する本セッションは、「ヨーロッパ日本研究学術交流会議—緊急会議 After / With コロナの「国際日本研究」の展開とコンソーシアムの意義」(2020年12月開催)の発議で推進しているヨーロッパWGの議論を基盤に企画されました。本シンポジウム総体の問題提起を受け止めながら、今後の「国際日本研究」の新たな展開と可能性について、3つのパートを設けて、総合討議を行います。

午後 (16時45分~21時00分)

16:45-17:00	司会	概要説明 荒木浩 国際日本文化研究センター 教授
	基調講演者	「国際日本研究」が求める研究視界とハンドブックとは何か 佐藤=ロスベアグ・ナナ ロンドン大学アジア・アフリカ研究学院 [SOAS] 言語文化学部長・准教授
17:00-18:00	ディスカッサント	安井真奈美 国際日本文化研究センター 教授
	ディスカッサント	アンナ・アンドレーワ ゲント大学 研究教授
18:10-19:00	発表者	In-between: Experiences and Challenges of Organizing the International Conference of the European Association for Japanese Studies (EAJS) at Ghent University in Times of Crisis and Transition アンドレアス・ニーハウス ゲント大学 教授
	ディスカッサント	楠綾子 国際日本文化研究センター 准教授
	ディスカッサント	アンナ・アンドレーワ ゲント大学 研究教授
19:10-19:50	発表者	編み合うテキスト遺産 テキストの学際的な再考を試みて エドアルド・ジェルリーニ ヴェネツィア・カ・フォスカリ大学 非常勤教授
	ディスカッサント	荒木浩 国際日本文化研究センター 教授
20:00-20:45	ラウンドテーブル・ディスカッサント	タイモン・スクリーチ 国際日本文化研究センター 教授
20:45-21:00	閉会の挨拶	瀧井一博 国際日本文化研究センター 副所長・教授



図版典拠一覧

- ① Illustration: Bastian Hernández ② 『婦人世界』22巻4号、1927年(表紙絵「花散る日」、高島華宵・画)、高島華宵大正ロマン館蔵
③ 磯田湖龍齋『風流十二季の栄花』、江戸時代、国際日本文化研究センター蔵 ④ 『妖怪絵巻』、江戸時代、国際日本文化研究センター蔵
⑤ 『じしん百万遍』、江戸時代、国際日本文化研究センター蔵 ⑥ カルロス・デル・プラド、エクトル・グティエレス、「エル・モンヘ・ロコ=セブルクロ・ブランコ[狂気の修道士= 白い墓]」、週刊雑誌『クエントス・デル・アブレリ』第1年号20巻の表紙(1952年12月5日) ⑦ 吉田初三郎『京都圖繪』1928年、国際日本文化研究センター蔵 ⑧ 中村協斎編纂『頭書増補/訓蒙図彙大成』(寛政元年) 国際日本文化研究センター蔵 ⑨ 『禍いの大衆文化 天災・疫病・怪異』2021年、小松和彦編・KADOKAWA ⑩ 『日本大衆文化史』2020年、日文研大衆文化研究プロジェクト編・KADOKAWA ⑪ 歌川国貞『今様三體志』、江戸時代、国際日本文化研究センター蔵、彩色 ⑫ 岡芳年「茂林寺の文福茶釜」、1892年、国際日本文化研究センター蔵

参加方法

下記URLもしくはQRコードからお申し込み下さい。
※対象者：研究者限定(大学院生含む)

参加登録フォーム

<https://ws.formzu.net/dist/S42611550/>



問い合わせ先

国際日本文化研究センタープロジェクト推進室
E-mail: taishu_staff@nichibun.ac.jp

主催：国際日本文化研究センター・大衆文化研究プロジェクト
共催：「国際日本研究」コンソーシアム